

妊娠中の定期検査について



当院では安全な分娩をめざし、以下の検査を行っています
検査結果は母子手帳に挟み、持ち歩きましょう。

| 検査の種類 | 項目 |
|---------|--|
| 妊娠初期検査 | 貧血、血液型、不規則抗体、血糖、HbA1c、子宮頸がん検診 B型肝炎ウイルス、C型肝炎ウイルス、風疹、梅毒、HIV トキソプラズマ、HTLV-1、クラミジア抗原 |
| 16週前後検査 | 子宮頸管長測定、 |
| 24週前後検査 | 貧血、血糖（採血は診察前に行います） 子宮頸管長測定 |
| 28週前後検査 | 子宮頸管長測定 |
| 35週前後検査 | 膣分泌物培養 |
| 36週前後検査 | 貧血、血液凝固検査 |
| 37週前後検査 | NST（ノンストレステスト） |

| | |
|--------------|--|
| 血液型 不規則抗体 | 分娩時や妊娠中、多量の出血により非常にまれですが輸血が必要となることがあります。血液型を調べることは安心なお産につながります。 |
| 貧血 | 貧血がある場合、早期に治療を行います。 |
| 血糖・HbA1c | 糖尿病合併妊娠や妊娠糖尿病は、巨大児や羊水過多症などの原因になります。早期発見・早期治療により合併症の予防が可能です。 |
| 血液凝固検査 | 血液疾患に気付かずに過ごしている方がまれにいます。出産は出血を伴うため事前に確認し、問題がある場合は特別な分娩プランを立てていきます。 |
| 梅毒 | お母さんから赤ちゃんにうつる可能性のある病気です。 母子感染の予防が可能です。 |
| B型肝炎ウイルス | お母さんから赤ちゃんにうつる可能性のある病気です。 陽性の場合、母子感染防止プログラムが保険適応であります。 |
| C型肝炎ウイルス | 血液や粘液を介して感染する病気です。母子ともに長期的な管理が望ましいとされます。 |
| 風疹 | 今までかかったことのない人が妊娠初期に感染すると、赤ちゃんに異常が出る場合があります。抗体値が低い方には、次回妊娠のためにも分娩後のワクチン接種を勧めています。 |
| トキソプラズマ | 妊娠中にお母さんが感染すると赤ちゃんに症状が出る場合があります。 内服治療が可能です。 |

| | |
|--------------------|---|
| HIV | お母さんから赤ちゃんにうつる可能性のある病気ですが、母子感染の予防が考案され予防成績が向上しつつあります。 |
| クラミジア抗原 | 子宮の出口にクラミジア細菌がいると破水や早産の可能性がたかくなります。陽性の場合、ご夫婦で治療が必要です。 |
| 子宮頸管長測定 | これにより早産の予測がたつ場合があります。素因のある方には治療が必要になります。 |
| 膣分泌物培養 | B群溶連菌の有無を確認します。 陽性の場合、分娩時に抗生剤治療が必要です。 |
| HTLV-I | HTLV-Iのウィルスは母乳を介して赤ちゃんに感染します。陽性の方は人工栄養などをすすめています。 |
| NST (ノンストレステスト) | 30～40分間横になり、おなかの上から胎児心拍と子宮収縮をモニターします。 |

出産前後は血液の状態が大きく変化します。緊急の処置が必要になる可能性をふまえ、出血に関するリスクをチェックし安全な分娩に備えます。

<その他>

*麻疹抗体（妊婦では重症化しやすく、流早産の原因になります）を行います。
麻疹抗体値の低い方には分娩後のワクチン接種を勧めています。

*出生前診断

*胎児スクリーニング検査

上記を含め、ご質問等ありましたら外来医師にご相談ください。

